

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	兵庫 県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	浜坂町立浜坂中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	3	4	1	12	24
生徒数	130	120	146	1	397	

研究の概要

1 研究主題

一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かすための学習活動、指導の在方をどう工夫するか。

————— 選択履修幅の拡大、授業形態の工夫を通して —————

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・英語、国語（選択教科に対する意識の向上を図るため）
- ・ 2年生・全教科（幅広い教科について偏りなく選択させるため）
- ・ 3年生・全教科（幅広い教科について偏りなく選択させるため）

選択履修幅の拡大へ向けての取り組み

選択教科のねらい

選択能力の育成

多様なコースを設定し、生徒自ら選択できる機会を与えることにより、選択能力を育てる。選択には講座そのものの選択と、講座内における自己目標や課題の選択がある。

生徒一人一人の興味・関心・意欲を大切にし、個を生かす。

生徒一人一人の自己学習力を生かす。自己学習力とは、自ら選択、決定した学習課題について、学習方法を工夫し、自主的・主体的に取り組む能力と定義した。

選択する教科及びその時数

昨年度

- ・ 1年生 選択教科実施せず（総合的な学習の時間で基礎的・基本的な情報収集能力等をしっかり押さえるため）
- ・ 2年生 選択Aグループ…国語、社会、数学、理科、英語（35時間通年）

- 選択 B グループ...音楽、美術、保健体育、技術家庭  
(35 時間通年)
  - ・ 3 年生
    - 選択 A グループ...国語、社会、数学、理科、英語  
(70 時間通年)
    - 選択 B グループ...音楽、美術、保健体育、技術家庭  
(70 時間通年)
- 学習指導要領による授業時数は1年0～35時間、2年50～85時間、3年105～165時間

#### 本年度

- ・ 1 年生 (年 20 時間)
  - 国語、英語
- ・ 2 年生 (年 70 時間)
  - 選択 A グループ...国語、社会、数学、理科、英語  
(35 時間通年)
  - 選択 B グループ...音楽、美術、保健体育、技術家庭  
(35 時間通年)
- ・ 3 年生 (年 140 時間)
  - 選択 A グループ...国語、社会、数学、理科、英語  
(35 時間通年 + 17 時間後期)
  - 選択 B グループ...音楽、美術、保健体育、技術家庭  
(35 時間通年 + 18 時間前期)

#### 講座の編成

選択教科の履修講座の決定にあたっては、次の方針で決定した。

#### 昨年度

- ア 生徒の興味・関心に応じて講座数を弾力的に設定し、少人数による授業を実施する。
- イ 選択した生徒の人数が多い場合、講座によっては教師一人当たりの人数が少なくなるよう、必要に応じて複数の教師を配置する。
- ウ 3 年生の選択教科は、選択 A、B ともアンケート時に希望教科を 2 教科ずつ記入させ、週 2 時間のうちどちらかの時間で希望教科を必ず履修させる。
- エ 履修教科の決定は、前学年の 3 月中にアンケートを実施して行う。

昨年度は、3 年生の選択 A、B とも週 2 時間としたため、希望教科をどちらかで履修することができたが、二つの教科を選択することがなかなかできない生徒は、1 年間意欲を持続させて学習することができないなどの弊害も出てきた。

本年度

- ア 生徒の興味・関心に応じて講座数を弾力的に設定し、少人数による授業を実施する。
- イ 3年生の選択教科は、もっとも受講したい教科を通年で選択させ、次に受講したい教科を半期で選択させる。
- ウ 教科の決定はガイダンス（4月下旬）の後、アンケートを実施して行う。（1年生は1学期末）

表1 本年度の講座人数

1年

	1-1	1-2	1-3	1-4
国語	15	16	16	18
英語	18	16	16	15

2年選択A

教科	担当者	人数
国語	国1	24
社会	社1	11
数学1	数1	18
数学2	数2	19
理科	理1	25
英語	英1	23

2年選択B

教科	担当者	人数
音楽	音1	17
美術	美1	19
体育男	体1	26
体育女	体2	23
技術	技1	19
家庭	家1	16

3年選択A  
、B通年

教科	担当者	人数
国語	国2	27
社会	社2	25
数学1	数3	24
数学2	理2	30
理科	理3	17
英語	英1	23
音楽	音1	32
美術	美1	16
体育男	体1	36
体育女	体2	12
技術	技1	25
家庭	家1	25

3年選択A  
、B半期

教科	担当者	人数
国語	国1	26
社会	社2	33
数学1	数3	19
数学2	理2	18
理科	理3	20
英語	英2	30
音楽	音1	24
美術	美1	27
体育男	体1	21
体育女	体2	24
技術	技1	20
家庭	家1	28

## 講座決定にあたってのガイダンスについて

これまでの取り組みの中で、ガイダンスの必要性については確認されてきた。

### 昨年度

前年度の3月に、選択教科の意義及び選択方法について1、2年合同で実施した。具体的な講座内容を提示しなかったため、履修講座決定後、生徒の希望内容と講座内容のギャップに戸惑う生徒があった。

### 本年度

昨年度の反省を生かし、新学期が始まった4月下旬に選択教科の意義、講座内容、選択方法についてのガイダンスを2、3年合同で実施した。また1年生については、1学期の終わりに実施した。

## 講座内容について

昨年度同様、選択Aでは基礎基本の定着をはかることを目的とし、選択Bでは課題学習、発展的な学習内容を行った。また、本年度より実施した1年生においては、2、3年の選択Aと同様に基礎基本の定着をはかる内容にした。

表2 選択教科内容一覧

### 1年（2講座）

教科	テーマ	内 容
国 語	漢字博士になろう!!	クイズ <sup>°</sup> を取り入れながら、プリント形式で漢字をマスターしていく。
英 語	自己表現力を高めよう (Speaking & Writing)	・英語で自己紹介 ・Creative Writing ・英語で手紙

### 2年 選択A（6講座）

教科	テーマ	内 容
国 語	国語の基礎知識	漢字を中心とする語句についての理解を深める、途中に作文、詩などの作品を作る。
社 会	地理、歴史を深めよう	地理の資料を見ながら、日本、世界の情勢を読みとる。ヒッテ <sup>°</sup> オヤ資料から歴史を深める。
数学1	数学を好きになろう(基礎編)	授業で学習した基本的な計算を徹底復習する。
数学2	数学を好きになろう(発展編)	授業で学習した内容を発展させ、難問にもチャレンジ <sup>°</sup> 。
理 科	生活を科学する	ふだんの生活の中で不思議に思っていることを様々な実験や調べ学習を通して解明する。
英 語	Step up English	1年生の復習・日常会話ができるようにする。

### 2年 選択B（6講座）

教科	テーマ	内 容
音 楽	音符を理解しよう	音符、休符など楽譜の基本を学び、キター <sup>°</sup> 演奏に挑戦。
美 術	誰でもヒッカリ	苦しい美術から楽しい美術へ、浜坂をアートしよう。一つのテーマで作品制作(美の追求)。
体育男	スホーツを楽しむ	様々なスホーツを体験し、運動の喜びを味わう。(球技、陸上、器械体操等)

体育女	ソフトボール ・バドミントン	練習内容やルールの学習、試合の中で作戦を考えながらスポーツを楽しむ。
技術	ものづくりをしよう	栽培をしたり、簡単な機械で楽しもう！
家庭	地域の食材を調べよう	地域の食材調べとその調理研究・食に関する小物作り(ランチョンマット等)。

### 3年 選択 A (6 講座) 通年

教科	テーマ	内 容
国 語	国語の力を高めよう	漢字検定合格をめざした学習や、名文鑑賞を通して国語力を高める。
社 会	日本を好きになろう！	様々な視点から日本をとらえ、歴史的事象や政治を分析していく。
数学 1	数学を好きになろう(基礎編)	授業で学習した基礎的内容を徹底復習。
数学 2	数学を好きになろう(発展編)	基礎から発展へ。難問にもチャレンジ。
理 科	やってみる理科	いろいろな実験を通して、科学現象を実際に目で見て手で触って確認する。
英 語	Let's enjoy english	日常的な会話や情報交換。異文化理解と英語の歌に挑戦。

### 3年 選択 B (6 講座)

教科	テーマ	内 容
音 楽	合奏	ギターを使いグループで合奏する。
美 術	誰でもヒカソ	苦しい美術から楽しい美術へ、浜坂をアートしよう。一つのテーマで作品制作(美の追求)。
体育男	スポーツを楽しむ	様々なスポーツを体験し、運動の喜びを味わう。(球技、陸上、器械体操等)
体育女	いろいろな球技・スポーツ	ルールや試合のやり方など自分たちで工夫し、ニュースポーツを楽しむ。
技 術	ものづくりをしよう	簡単な機械の仕組みを知ろう。
家 庭	幼児遊びとおやつ	小物作り... 幼児の喜ぶおもちゃ作りとおやつ作り。

### 3年 選択 A (6 講座) 半期

教科	テーマ	内 容
国 語	基礎の徹底	漢字・文法などの言語の習得と文章読解のポイントをつかむ。
社 会	地・歴総復習	プリント学習を中心に苦手範囲を見つけ克服しよう。
数学 1	計算徹底克服	自分の苦手な分野の計算を徹底練習。
数学 2	考える数学	数学的な考え方を付けるため、応用問題に挑戦する。
理 科	やってみる理科	いろいろな実験を通して、科学現象を実際に目で見て手で触って確認する。
英 語	英語を何とかしよう会	1、2年の復習と単語暗記、英文法の解説。

### 3年 選択 B (6 講座) 半期

教科	テーマ	内 容
音 楽	アカペラ合唱	ハーモニー作りを行い、合唱を極める。
美 術	誰でもヒカソ	苦しい美術から楽しい美術へ、浜坂をアートしよう。一つのテーマで作品制作(美の追求)。
体育男	スポーツを楽しむ	様々なスポーツを体験し、運動の喜びを味わう。(球技、陸上、器械体操等)
体育女	バドミントン	練習内容やルールの学習、試合の中で作戦を考えながらスポーツを楽しむ。
技 術	コンピュータで作ろう	プレゼンテーションソフトを使った調べ学習&発表。
家 庭	幼児遊びとおやつ	小物作り... 幼児の喜ぶおもちゃ作りとおやつ作り。

アンケート結果から（生徒2、3年生及び教師）

生徒アンケート（数字はパーセント）

1 ガイダンスは参考になったか

	2年A	2年B	3年A通	3年B通	3年A半	3年B半
なった	25	54	20	56	27	60
ある程度なった	66	40	57	35	47	27
ならなかった	9	6	23	9	26	13

2 講座内容に満足しているか

	2年A	2年B	3年A通	3年B通	3年A半	3年B半
満足している	87	96	72	96	75	89
満足してない	13	4	28	4	25	11

3 選択教科で学習した内容が必修教科に役立っているか

	2年A	2年B	3年A通	3年B通	3年A半	3年B半
役だっている	30		27		40	
役立つ時もある	62		65		48	
役だっていない	8		8		12	

4 講座の数をどう思うか

	2年A	2年B	3年A通	3年B通	3年A半	3年B半
今のままでよい	66	74	74	85	77	72
増やした方がよい	33	26	20	13	14	16
減らした方がよい	1	0	6	2	9	12

5 講座の人数をどう思うか

	2年A	2年B	3年A通	3年B通	3年A半	3年B半
今のままでよい	79	90	79	80	83	72
増やした方がよい	16	9	9	4	5	8
減らした方がよい	5	1	12	16	12	20

教師アンケート（数字はパーセント）左数字は8月、右数字は2月実施

1 今年度の選択教科の実施方法についてどう思うか

今年度でよい	82	68
昨年度の方がよい	6	4
すべて半期がよい	6	28
その他	6	0

2 講座を受講している生徒は意欲的に取り組んでいるか

取り組んでいる	46	48
おおむね取り組んでいる	54	48
取り組んでいない	0	4

3 講座数について

増やした方がよい	29	20
現状でよい	71	76
減らした方がよい	0	4

4 講座の人数について

多い	57	50
現状でよい	44	50
少ない	3	0

5 個を生かす観点に立って評価を心がけているか

心がけている	0	18
まあまあ心がけている	92	65
あまり心がけていない	8	17
心がけていない	0	0

6 授業の中で生徒自ら選択できる場を与えているか

十分与えている	17	35
まあまあ与えている	58	24
あまり与えていない	25	41
与えていない	0	0

7 一人一人の興味・関心・意欲を大切に個を生かしていると思うか

十分生かしている	17	29
まあまあ生かしている	83	47
あまり生かしていない	0	24
生かしていない	0	0

8 生徒自ら進んで学習できるよう指導内容、指導方法を工夫しているか

よく工夫している	0	24
まあまあ工夫している	83	64
あまり工夫していない	17	12
工夫していない	0	0

( 2 ) 年次計画

平成  
14  
年度

テーマ

一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かすための学習活動、指導の在り方をどう工夫するか。

———— 選択履修幅の拡大、授業形態の工夫を通して ————

仮説

生徒が自ら学びたいと希望し選択した教科を履修させることで、一人一人の学習意欲や可能性を伸ばすことができる。

研究内容・方法

選択履修幅を拡大し、生徒が希望する教科を履修することができる指導体制の確立方法について研究する。

平成  
15  
年度

テーマ

一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かすための学習活動、指導の在り方をどう工夫するか。

———— 選択履修幅の拡大、授業形態の工夫を通して ————

仮説

生徒が自ら学びたいと希望し選択した教科を履修させることで、一人一人の学習意欲や可能性を伸ばすことができる。

研究内容・方法

選択履修幅を拡大するとともに、生徒が主体的に学ぶことができる学習内容について研究する。

平成  
16  
年度

テーマ

一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かすための学習活動、指導の在り方をどう工夫するか。

———— 選択履修幅の拡大、授業形態の工夫を通して ————

仮説

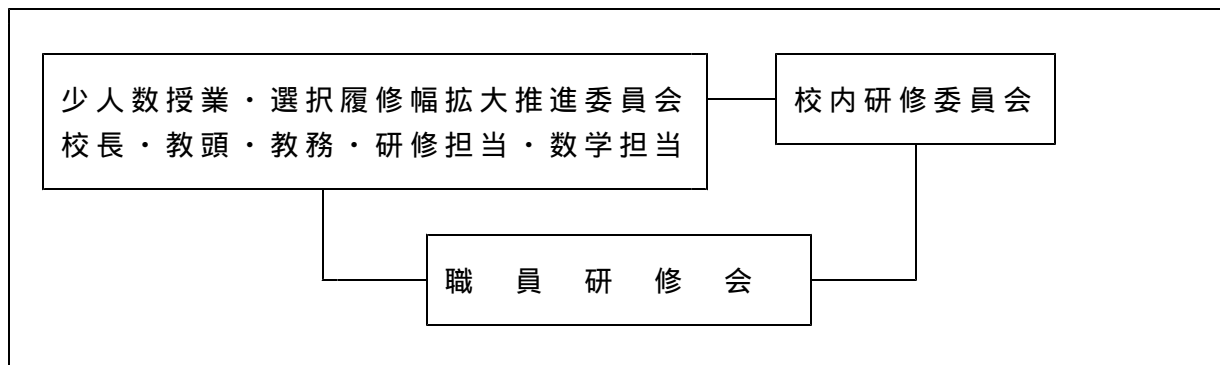
生徒が自ら学びたいと希望し選択した教科を履修させることで、一人一人の学習意欲や可能性を伸ばすことができる。

研究内容・方法

選択履修幅を拡大するとともに、生徒が主体的に学ぶことができる学習内容、指導の在り方について研究する。



### ( 3 ) 研究体制



### 平成 1 5 年度の成果及び課題

#### 成果

- ・昨年度よりガイダンスの内容を充実させたことにより、選択する際、参考になった生徒が多かった。
- ・生徒のニーズに応えるためのアンケートを実施し、それにそって講座内容を考えることができた。
- ・免許外での指導が 5 講座から 1 講座に減らすことができた。
- ・選択 A では、基礎基本の定着に目的をおき、意欲的に学習する生徒が増えた。
- ・選択 B では、授業では扱わない内容を多く取り入れたため、興味深く取り組む生徒が多かった。
- ・講座内容に満足した生徒がほとんどであった。
- ・3 年生において、通年の 2 講座を本年度半期にしたことによって、目的意識を最後まで持続させることができた。
- ・1 年生においても選択教科を実施することができた。
- ・個に応じた指導内容や指導方法を工夫するようになった。

#### 課題

- ・選択 B に比べて、選択 A はガイダンスが教科選択の参考にならなかった生徒が多くあった。
- ・講座人数が多すぎて、思い通りの学習ができない生徒があった。
- ・生徒の希望に合わせた講座数の設定を考える必要がある。
- ・1 年生の選択教科を充実させる。(講座数を増やす)
- ・選択 A において、生徒に目的意識をしっかりと持たせること、学習内容のさらなる工夫が必要である。
- ・マナー化しない授業づくりが必要である。

学力把握のための学校の取り組みについて

選択教科についてのアンケートの実施

(生徒 年2回 10月、2月) (教師 年2回 8月、2月)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

「平成15年度但馬地区学力向上フロンティア事業(新学習システム推進)研修会」における実践発表

- ・日時 平成15年1月23日(金) 13:00~16:00
- ・場所 県立但馬長寿の郷(兵庫県養父郡八鹿町)
- ・テーマ 一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かすための学習活動、指導の在り方をどう工夫するか。  
——— 選択履修幅の拡大、授業形態の工夫を通して ———
- ・対象 但馬管内全小・中学校フロンティアスクール担当教員及び新学習システム推進教員または担当者

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |              |            |    |       |
|----------------------|--------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校   | 14年度からの継続校 |    |       |
| 【学校規模】               | 3学級以下        | 4~6学級      |    |       |
|                      | 7~9学級        | 10~12学級    |    |       |
|                      | 13~15学級      | 16学級以上     |    |       |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他 | T・Tによる指導   |    |       |
| 【研究教科】               | 国語           | 社会         | 数学 | 理科    |
|                      | 外国語          | 音楽         | 美術 | 技術・家庭 |
|                      | 保健体育         | その他        |    |       |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |              | 有          | 無  |       |